

農業



平成28年11月号

会誌 No. 1618

目次

巻頭言

- 世界文化フォーラムに参加して……………太田 信介 3
－水と文化の関わりを考える－

論 壇

- わが国における都市農業の可能性……………望月 龍也 4

農業懇話会

- 企業農業 取組の現状と方針……………福永 庸明 6
質疑応答 …………… 19

農事功績者座談会

- 稲作等の集落型営農法人経営…………… 24
農事組合法人おくたま農産の経営と思い……………佐藤 正男 24
現地指導者のコメント……………大友 英嗣 34
意見交換 …………… 35

表彰農家訪問

- 科学的根拠に基づいたハーブ類の大規模生産を展開……………吉岡 宏 42
－茨城県取手市に霜多増雄さんを訪ねて－

農業・農村の現場から

島根県の耕作放棄地を活用した「放牧仕上げ熟ビーフ」……松本 和典 50
－黒毛和種経産牛と耕作放棄地のコラボレーション－

世界の農業は今

欧州における酪農協の概況……木下 順子 56

私の経営と志

目指す道……長峰 良孝 62

農政情報

…… 64

平成28年度（第55回）農林水産祭天皇杯等受賞者…… 65

大日本農会だより…… 66

ミニ情報

「地理的表示及びGIマークの表示について」…… 41

表紙写真説明

黒毛和種経産牛の放牧（島根県大田市水上町）

島根県大田市では、繁殖牛としての役目を終えた10歳齢程度の黒毛和種経産牛を耕作放棄地に春から秋にかけて放牧肥育している。放牧期間中は濃厚飼料を給与せずに野草だけで肥育することにより、赤身の牛肉となる。

この放牧肥育の長所は、①耕作放棄地を活用することにより、エサ代がかからないこと、②牛が野草を「餌」として食べてくれることにより、重労働である草刈りをせずにするむこと、③耕作放棄地を放置すると獣害の温床になり、また将来の復田が困難になるが、それを防ぐことができること、④人手がかかるのは移牧の時だけで、毎日の作業は「牛が元気であるか」を監視することで高齢者にも優しい技術であることである。

この手法で作られた牛肉は「放牧仕上げ熟ビーフ（略称：熟ビーフ）」という名称で商標登録しており、また「熟ビーフ連絡会」を結成してレストランへの販売や加工品開発を自治体などと連携して行い、集落の活性化に一役買っている。

（写真：三久須放牧組合、文：独立行政法人家畜改良センター 松本和典）